

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 研修の工夫／常磐会短期大学附属常磐会幼稚園

保育の質の向上のために工夫していることはありますか？子どもたちの「科学する心」を育てるために、様々な方法で環境構成や保育者の援助の工夫を図っていることと思います。また、園内での研究・研修の方法を工夫して、主題に繋がる保育の向上に繋げている園もあると思います。

今回は、園の環境構成を考える上で、新たな発想が必要な時に、ひとつの方法として、“ブレインストーミング”を取り入れ園内研修の工夫をした事例をご紹介します。



### ○「面白い毎日」を目指して～ブレインストーミング～／3～5歳児

「科学する心を育てる」ことを主題とした研究を始めて10年目。人や動植物、自然事象との関わり【体験】により、「あれ？なに？」という様々な感情がわき起こり、「もっと知りたい」と知的な好奇心が芽生え『面白い』ことが【科学の芽】であり、自らが主体的に遊びを進めることが【科学する心】であると考えてきた。

そのような中、新園舎建設という新たな局面に出会う。工事中、園庭はかなりの縮小を余儀なくされ、同じ時間に全園児が自由に好きな遊びができるのであろうかという懸念があった。他にも、固定遊具の一部は撤去、もしくは設置場所の変更など、これまで経験したことのない状況が予想された。このような環境下で、いかにして本園が今まで大切にしてきた好きな遊びの充実、子どもにとっての豊かな生活を保障していくことができるのかが課題になった。

そこで、ブレインストーミングの実施により、どうすれば工事中の環境を面白く過ごせるか、とにかく多くの意見とアイデアを出し合うことにした。新たなアイデアを生み出すことが本質であるブレインストーミングによって、いままでにない視点や取り組みを見出すことを期待して全保育者で実施した。

#### ✿ アイデアをたくさん出し合う

- テーマが「好きな遊びを充実させるための方法は？」となると、かなり広範囲に亘る。しかし、幼稚園が迎える状況を考えると、あえてテーマを絞りきらず、とにかくアイデアを量産するために大きなテーマにした。
- 質より量！突飛なアイデアにこそ突破口！現場は大いに盛り上がり、中には「A3用紙じゃ足りない！」という声もあがった。



#### ✿ グループングする

- アイデアを出し合い、同じ質をもった内容ごとに分類整理した。保育者みんなでお互いのアイデアを確認しながらの作業では、見出しに多くの共通点が見られた。
- ごく端的にまとめられた見出しだと、グループングもしやすく、それぞれの思いの本質が見える。「あっ！同じアイデア発見！」「みんなの考えが良く分かる！」と、保育者間で思いを共有し合うきっかけにもなった。



## ✿ 今やるべきことを探る！

- 多くの見出しが集まった項目は「空間」「時間」「仲間」であった。この3点に取り組みの軸を絞り、それぞれに取り組みたいアイデアを抽出した。そのうえで、アイデアを取り巻く「現状」「課題」をまとめ、今後、実際に取り組むにはどのような方法があるのか、具体的に考えた。

グループングで見えてきた項目・・・



## ✿ 子どもたちがもっと面白がる毎日のために

- 工事中という限られた環境の中で、子どもたちの「科学する心を育てる」ことに繋がる「もっと面白がる毎日のためには」以下の環境の工夫を考える。

### ● 空間

#### 「園庭環境の充実」

工事による園庭縮小は必至。限られた空間をどう活用して遊びを確保していくのか。固定遊具の再配置が急務。

### ● 時間

#### 「とことん遊ぶ」

好きな遊びの時間はたくさんあるが、昼食時などは、時間が決まっ  
ていて、子どもたちの遊びを中断することがある。そこでランチタイムを作ることに。

### ● 仲間

#### 「ごっこ遊びを盛り上げる」

工事という、非日常を間近に観察できる特別な機会。工事の方と一緒に過ごし、関わりをもつ中で期待できる遊びの展開があるのではないかと。

## ✿ 「空間」「時間」「仲間」プロジェクト

その後、ブレインストーミングをきっかけとして、この3つのプロジェクトはそれぞれにチームを編成し、進捗状況を報告し合い、議論をしながらチームごとに「空間」「時間」「仲間」を意識し進めていった。最終的にそれぞれの考察をまとめていく中で感じたことがある。それは『空間の中で時間は流れ、空間を共有する仲間との関係が新しい時間を刻んでいく』ということだった。

- それぞれのプロジェクトでこれら3つの“間”の考察を確認した。「時間」「空間」「仲間」は切り離されることなく、それぞれが関係し合いバランスよく展開されてこそ、子どもたちの好きな遊びは豊かに保証されるということであり、それこそが「面白がる毎日」につながるのであるということであった。
- 子どもたちが「面白がる毎日」を過ごすためには、保育者が子どもの今の姿をしっかりと見取る力を持ち、「何を面白がっているか」科学の芽生えを見逃さず、その芽をどのように育てていくのか、育てていくのかという点を意識しながら、環境を構成していくことが大切である。
- この園舎建て替えという大きな出来事、そのときに子どもたちが体験するであろう毎日を保育者が見据え、考え、意図して環境構成をしていくことで、科学の芽が生まれ、育まれていくのだということが分かった。
- 今回、遊びの展開過程を保育者自身も面白がるのが重要であると感じた。
- 面白がる毎日=豊かな遊びの保障⇒面白がる力=「科学する心」であるということ意識して、これからも保育をすすめていきたい。



無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム  
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」